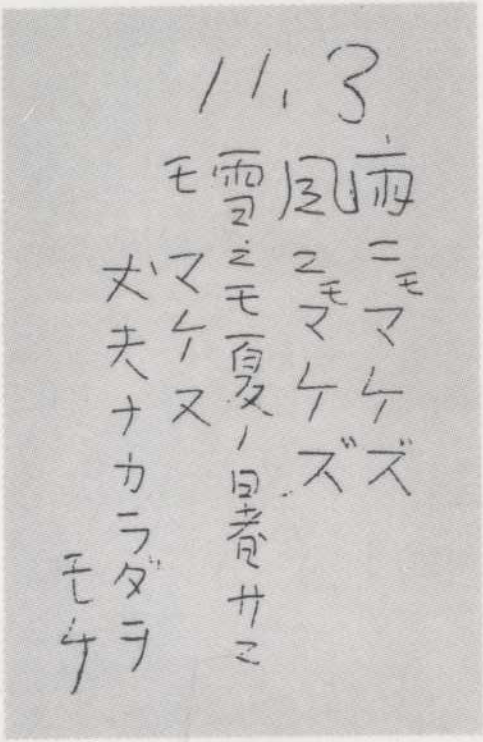
宮沢賢治詩集

谷川徹三編



野や山を友とする自然体験，法華経に傾倒した宗教体験，貧しい東北農民を眼前にみる社会体験の三位一体の上に発想・表現される宮沢賢治(1896－1933)独得の魅力に満ちた詩群から146篇を収録。一瞬一瞬心に映るものの中に万象の永遠の姿をみるという賢治の世界は，今日ますますその不思議な輝きを増し，読者をとらえてはなさない。

緑 76-1
岩波文庫

みやざわけんじししゅう
宮沢賢治詩集

定価はカバーに表示してあります

1950年12月15日　第1刷発行 ©
1994年10月5日　第60刷発行

編　者　たにかわてつぞう 谷川徹三

発行者　安江良介

発行所　株式会社 岩波書店
〒101-02 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5

電　話　案内 03-5210-4000　営業部 03-5210-4111
文庫編集部 03-5210-4051

印刷・精興社　製本・桂川製本

ISBN 4-00-310761-6　　Printed in Japan

岩波文庫
31-076-1

宮沢賢治詩集

谷川徹三編

岩波書店

目次

春と修羅 一

序……一〇
屈折率……一四
くらかけ山の雪……一五
丘の眩惑……一六
ぬすびと……一七
春と修羅……一八
有明……二三
雲の信號……二二
風景……二三
休息……二四
眞空溶媒……二六
蠕蟲舞手……四三
小岩井農場 パート二……四七
風景觀察官……五〇
岩手山……五二
高原……五二
原體劍舞連……五三
グランド電柱……五六
電線工夫……五七
マサニエロ……五八
永訣の朝……六一
松の針……六五
樺太鐵道……六七
鈴谷平原……七二
不貪慾戒……七五

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

善鬼呪禁……一五四
遠足許可……一五六
母に言ふ……一五八
霜林幻想……一六一
郊外……一六四
命令……一六六
旅程幻想……一六七
蟻……一六九
鑛染とネクタイ……一七一
岩手輕便鐵道　七月……一七三
下背に日の出をもつ山に闕する童話風の構想……一七六

春と修羅　三

岩手輕便鐵道の一月……一八二
氷質の冗談……一八三
昇羃銀盤……一八五
作品第四〇九番ノ一……一八六
未來圈からの影……一八九
詩への愛憎……一九〇
水汲み……一九五
はるかな作業……一九七
圃道……一九八
白菜畑……二〇〇
病院……二〇一
作品第一〇〇四番……二〇二
作品第一〇〇八番ノ一……二〇三
作品第一〇一五番……二〇四
作品第一〇一六番……二〇六
開墾……二〇七

作品第一〇一七番ノ二 ……二〇八
札幌市 ……二〇九
野の師父 ……二〇九
作品第一〇二二番 ……二一五
つかれてねむいひるまごろ ……二一六
作品第一〇三一番 ……二一七
市場歸り ……二一八
悍馬 ……二一九
政治家 ……二二一
作品第一〇五四番 ……二二二
縣技師の雲に對するステートメント ……二二三
僚友 ……二二七
稻作插話 ……二二八
和風は河谷いつぱいに吹く ……二三二
祈り ……二三八
會合 ……二三九
停留所にてスキトンを喫す ……二四一
穗孕期 ……二四四

春と修羅 四

阿耨達池幻想曲 ……二四八
花鳥圖譜 雀 ……二五一
若き耕地課技手の Iris に對するレシタティヴ ……二五二
毘沙門天の寶庫 ……二五五
(下で別れたさつきの人は) ……二五八
(まあこの空の雲の量と) ……二六三
(こつちの顏と) ……二六四
生徒諸君に寄せる ……二六七

東京

浮世繪……二七四
丸善階上喫煙室小景……二八〇

文語詩稿

岩手病院……二八八
（川しろじろとまじはりて）……二八九
上流……二九〇
家……二九〇
（林の中の柴小屋に）……二九一
雪の宿……二九二
（萌黄いろなるその頸を）……二九三
米穀商……二九三
流氷……二九四
峡野早春……二九五
早春……二九五
川……二九六
祭日……二九六
歯科醫院……二九七
母……二九七
戸主……二九八
崖下の床屋……二九八
旱害地帯……二九九
橋場線七っ森下を過ぐ……三〇〇
氷上……三〇一
（うたがふをやめよ）……三〇二
二月……三〇二
岩頸列……三〇三
（巨なるどろのもとにて）……三〇四

僧園幻想 …… 三〇五
祭日 …… 三〇六
谷 …… 三〇七
（このみちのいつともしらね）…… 三〇八
烏百態 …… 三〇八
縣道 …… 三〇九
（われらひとしく丘に立ち）…… 三一〇

肺炎詩篇

（いまわたくしの胸は）…… 三一二
（その恐しい黒雲が）…… 三一二
夜 …… 三一四
病相 …… 三一五
眼にて言ふ …… 三一六
（手は熱く足はなゆれど）…… 三一八

手帳より

十月廿日（この夜半おどろき さめ）…… 三二二
十一月三日（雨ニモマケズ）…… 三二五

歌曲

牧歌 …… 三三〇
註 …… 三三三
解説 谷川徹三 三四三

春と修羅 一

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

序

わたくしといふ現象は
假定された有機交流電燈の
ひとつの青い照明です
（あらゆる透明な幽靈の複合體）
風景やみんなといつしよに
せはしくせはしく明滅しながら
いかにもたしかにともりつづける
因果交流電燈の
ひとつの青い照明です
（ひかりはたもち　その電燈は失はれ）
これらは二十二箇月の

過去とかんずる方角から
紙と鑛質インクをつらね
（すべてわたくしと明滅し
　みんなが同時に感ずるもの）
ここまでたもちつゞけられた
明暗交替のひとくさりづつ
そのとほりの心象スケッチです
これらについて人や銀河や修羅や海膽は
宇宙塵をたべ　または空氣や鹽水を呼吸しながら
それぞれ新鮮な本體論もかんがへませうが
それらも畢竟こゝろのひとつの風物です
たゞとにかく記錄されたこれらのけしきは
記錄されたそのとほりのこのけしきで
それが虚無ならば虚無自身がこのとほりで
ある程度までみんなと共通でもありませう

（すべてがわたくしの中のみんなであるやうに
みんなのおのおののなかのすべてですから）

けれどもこれら新世代沖積世の
巨大に明るい時間の集積のなかで
正しくうつされた筈のこれらのことばが
わづかその一點にも均しい明暗のうちに
（あるひは修羅の十億年）
すでにはやくもその組立や質を變じ
しかもわたくしも印刷者も
それを變らないとして感ずることは
傾向としてはあり得ます
けだしわれわれがわれわれの感官をかんじ
やがては風景や人物を信ずるやうに
そしてたゞ共通に信ずるだけであるやうに

記錄や歷史　あるひは地史といふものも
それのいろいろの論料（データ）といつしよに
（因果の時空的制約のもとに）
われわれが信じてゐるのに過ぎません
おそらくこれから二千年もたつたころは
それ相當のちがつた地質學が流用され
相當した證據もまた次々過去から現出し
みんなは二千年ぐらゐ前には
青ぞらいつぱいの無色な孔雀が居たとおもひ
新進の大學士たちは氣圏のいちばんの上層
きらびやかな氷窒素のあたりから
すてきな化石を發掘したり
あるひは白堊紀砂岩の層面から
透明な人類の巨大な足跡を
發見するかもしれません

すべてこれらの命題は
心象や時間それ自身の性質として
第四次延長のなかで主張されます

屈折率

七つ森のこつちのひとつが
水の中よりもつと明るく
そしてたいへん巨きいのに
わたくしはでこぼこ凍つたみちをふみ
このでこぼこの雪をふみ
向ふの縮れた亞鉛の雲へ
陰氣な郵便脚夫のやうに
（またアラッディン　洋燈とり）

急がなければならないのか

くらかけ山の雪

たよりになるのは
くらかけつづきの雪ばかり
野はらもはやしも
ぽしやぽしやしたり黝んだりして
すこしもあてにならないので
まことにあんな酵母のふうの
朧ろなふぶきではありますが
ほのかなのぞみを送るのは
くらかけ山の雪ばかりです

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com